

伊丹ルーテル教会四旬節第2主日礼拝

2021年2月28日

前奏：

招きのことば：詩編16編7-11節

わたしは主をたたえます。

主はわたしの思いを励まし | わたしの心を夜ごと諭してくださいます。

わたしは絶えず主に相對しています。主は右にいまし | わたしは揺らぐことはありません。

わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います。

あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく | あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず
命の道を教えてくださいます。

わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い | 右の御手から永遠の喜びをいただきます。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなた
がお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊の
お名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生
ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝もともに礼拝にあずかり、あなたのみ言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいただきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。あなたはみ言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそあなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナウイルス・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマ人への手紙 4章 13-25節

神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです。律法に頼る者が世界を受け継ぐのであれば、信仰はもはや無意味であり、約束は廃止されたこととなります。実に、律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違犯もありません。従って、信仰によってこそ世界を受け継ぐ者となるのです。恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、単に律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです。彼はわたしたちすべての父です。「わたしはあなたを多くの民の父と定めた」と書いてあるとおりです。死者に命を与え、存在していないもの呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、その御前でわたしたちの父となったのです。彼は希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ、「あなたの子孫はこのようになる」と言われていたとおりに、多くの民の父となりました。そのころ彼は、およそ百歳になっていて、既に自分の体が衰えており、そして妻サラの体も子を宿せないと知りながらも、その信仰が弱まりはしませんでした。彼は不信仰に陥って神の約束を疑うようなことはなく、むしろ信仰によって強められ、神を賛美しました。神は約束したことを実現させる力も、お持ちの方だと、確信していたのです。だからまた、それが彼の義と認められたわけです。しかし、「それが彼の義と認められた」という言葉は、アブラハムのためだけに記されているのではなく、わたしたちのためにも記されているのです。わたしたちの主イエスを死者の中から復活させた方を信じれば、わたしたちも義と認められます。イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです。

福音書朗読：マルコによる福音書 8章 31-38節

それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き

下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。神に背いたこの罪深い時代に、わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子もまた、父の栄光に輝いて聖なる天使たちと共に来るときに、その者を恥じる。」

讚美歌 534 番

- 1 ほむべきかな 主のみめぐみ 今日まで旅路を 守りたまえり
※よろずの民よ たたえまつれ 「あがない主(ぬし)に み栄えあれ」と。
- 2 ほむべきかな み名によりて うくれば物みな よからざるなし。 ※
- 3 ほむべきかな 主のみ名こそ いまわの時にも 慰めとなれ。 ※ **アーメン**

説教：「苦しみを受け、三日ののちに復活する」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

四旬節第2主日です。イエス様を信じて歩む私たちに、力強い励ましのメッセージです。イエス様が私たちのために苦しみを受け、またよみがえってくださったことを今週も覚えて歩みます。今日はイエス様を救い主、メシアと告白したペテロが、それ以来ご自分の十字架の苦しみと復活を予告し始められたイエス様を、それは違ふと脇にお連れして叱ったことに対して、イエス様が言われたことがお話の中心です。

イエス様がそのご生涯で最も北に旅されて、お弟子たちに「あなたがたはわたしのことを誰だと言いますか」と尋ねられた時、ペテロはほかの弟子たちに先立ち、また率先して、イエス様に「あなたはキリストです」つまり、あなたは昔サウル王やダビデ王がサムエルに油注がれてイスラエルと世界のために王となったように、神様から油注がれた者、救い主です、と告白しました。

このペテロの信仰の告白を受けて、このときからイエス様はどんどん南に進んで歩いていかれ、エルサレムに入城され、そこで不当な裁判を受けて十字架につけられます。そして復活されます。それでイエス様は弟子たちにご自分がエルサレムで長老、祭司長、律法学者という、当時のイスラエルの人々の最高責任者の方々から排斥されて殺されて、三日目によみがえることを明確に予告し始められました。

このときです。さきほど「イエス様、あなたは救い主です」と立派な信仰告白をしたばかりのペテロがイエス様を脇によせて、イエス様を叱りました。救い主ならエルサレムの都に行つて

王となるはずです、どうして苦しみを受けたり、殺されたりすると言われるのです。それは間違っています。イエス様、ちゃんとしてください、という訴えをイエス様にしています。そして、他の弟子たちはわからないのですから、私の忠告を聞いて言い直してください、と脇へお連れして小声で言っているようです。

イエス様はペテロに連れられて脇へ行っておられますが、このペテロの態度を見て、振り返って他の弟子たちを見ながらペテロを叱りました。あなたがわたしを救い主だと告白したから救い主としてこれからはすべきことを話しているのに、あなたは人間的なことを考えてそれを止めようとするのか、それは神様が人を救うためにお考えになっているご計画をはばもうとするサタンのことばだ、と言われたのです。

そして、引き下がれ！と言われましたが、それはどこかにいってしまえ、と言う意味ではなくて、私の後ろにつきなさいという意味でした。ペテロがイエス様の前に出て、イエス様に言うべきことを指図しているような有様は異常です。むしろイエス様はペテロがイエス様の後ろに、弟子として従うようにと勧めています。

ここまでお聞きになっていかがでしょうか。あなたもペテロに出しゃばりすぎだと思いましたか。イエス様を脇へよせて、言うべきことを言わなかったことを叱るとは何事か、と思われませんでしたか。

しかし、私たちの心はペテロと同じようなことを、ペテロのようにはあからさまにはないのですが、イエス様に対してしているのです。それは、自分の考えによってイエス様を操作しようという心です。自分の救い主のイメージにあわせたイエス様であってほしい、という願いを持つことです。

そんな風に言えば、皆さんにも心当たりがあると思いませんか。神様があなたのことを大切に、あなたの罪を赦し、あなたに新しい人生と生きがいを与えてくださるのですが、あなたはイエス様に、ありがとうございます、そうだったらこれから私の思い通りの人生を生きることができるようになってください、と願うことはなかったでしょうか。

もちろんイエス様はあなたの心の願いをそのまま祈ることを願っておられ、そしてあなたの祈りを聴いてお答えくださる方です。しかし、不遜にもイエス様にはあなたに思い通りの人生を与える義務があるかのように思っていないでしょうか。

人生には実にいろいろなことが起こります。自分で計画したことがうまく実現しないこともあります。また、自分では思いもよらなかったことが起こります。そんなとき、欲求不満に陥って怒りを覚えたり、自分はどうせ人生をうまく歩めないだめな人間だと打ちひしがれます。また、深いところでどうして私がこんなことを経験しなければならぬのか、と理解できず、神様は本当は無力なのではないか、と疑います。

ペテロがイエス様を叱った心はこんな心に近いものでした。イエス様がどのような救い主であるべきか、ペテロの心にはすでにイメージがあったのでしょうか。ペテロはイエス様に従ってガリラヤ地方の町や村を訪ね、悪霊を追い出したり、病気を癒すなど、救い主でなければできないイエス様の数々の奇跡も見てきました。自分なりの救い主のイメージを膨らませてきました。そしてそのイメージにあわないイエス様を許すことができなかつたのでしょうか。イエス様、それでは話が違います、これまでイエス様が見せてくださったことによって私が抱いていた救い主のイメージと正反対です、そんなはずはないです、納得できません、言い直してください、計画を変えてください、わたしの考えにあう救い主でいてください、ほら、他の弟子たちも動揺しています、あなたはわたしが演出する救い主を演じなければなりません、と必死で詰め寄っています。

イエス様はペテロの思いをはるかにこえた救い主です。私たち全人類の罪をかわりに背負って十字架にかかって死んで裁かれること、そして私たちを罪と死と悪魔の力から自由にして、神様の子どもとして永遠の命を生きることができるようによみがえってくださる救い主です。罪と死と悪魔の力の前に無力な私たちを、同じ人間の姿になって担ってくださり、私たちを支配している抵抗できない力の最大限の苦しみをイエス様はその身に負ってくださいました。罪と死と悪魔は私たち罪びとを滅ぼす力です。神様に怒りをぶついたり、もう神様から愛される資格はないと絶望して心がいびつになり、神様との関係を自分から断ち切ってしまう罪深い私たちです。そして、自分の罪のために私たちは死にます。さらに心は不自由になり神様に逆らうことを賢いことと思ひ違いをさせる悪魔の自由にされてしまいます。イエス様はその力のありったけをその身に負ってくださって、私たちのかわりに犠牲になってもらともに殺されてくださいました。そしてそれらの力を滅びの中に残したまま、イエス様だけがよみがえってくださいました。信じる私たちに罪と死と悪魔に縛られない永遠の命を与えてくださったのです。

ペテロが考えていた、この世で、一時的に王国を実現する救い主と比べると、全人類の永遠の救いを成し遂げて下さった救い主イエス様のみわざはなんとスケールの大きなことでしょうか。それはまた、人間の罪の問題を根本から解決する救いの実現です。神様の思いは私たちの思いをはるかに超えています。私たちが考え、望んでいる救いをはるかに超えて、私たちが無理だとあきらめてきたような根本的な罪の問題を明確に解決して下さる救いをもたらしてください。イエス様は十字架と復活によって私たち人間の罪と絶望を根本からただして解決する救いを実現してくださったのです。

ペテロはイエス様に叱られました。そして、イエス様がペテロのために、また弟子たちのために、そして全人類のためにこれから救い主として十字架の苦しみと復活に向かって歩んでいられることを教えられたのです。まだ自分の考えでイエス様の救いを思い描いていたペテロは、イエス様に自分の考えではなく、神様のみ旨を大切にしなさい、そしてわたしの後ろに従ってきなさい、と諭されました。

ペテロのような都合のよい救いを求める心は私たちの魂の叫びです。隠すことはできません。何度ももたげてくる思いです。自分のために、自分たちのために世界がまわっているような夢を実現したいと願う魂の叫びです。イエス様はそこで群衆をも集めて、弟子たちと群衆に「自分の十字架を負ってイエス様に従うように」と言われました。そんな私たちの刹那的な魂の叫びに心を支配されしないで、あなたの魂を永遠の滅びと悪魔の支配から解放して神さまの子どもとしての新しい永遠の命に生かすイエス様と福音に従っていくようにと言われたのです。ここに大きな励ましがあります。

あなたが目先の苦しみから解放され、目先の夢を実現することも大切なことです。しかしまずあなたの魂がイエス様によって罪と死と悪魔の力から自由にされて、すべての罪を赦され、神様の子どもとして新しい命をいただいていることに思いを定めましょう。神様の赦しのことば、あなたを生かすいのちのことばにあずかっていることにまず目をとめて、思いを深めましょう。すると、そこから湧き上がる魂の歩みがあらためて始まっていきます。そこが神の国です。

私たちの生まれつきの魂は、ペテロのように自分の考えた救いとらわれて、神様が与えてくださる神様のスケールで、私たちの本質的な罪の性質を赦して作り変えて下さる、神様にしかできないみ救いを把握できません。ですから、私たちは毎日ペテロのようにイエス様を脇へ呼んで叱ってしまいます。それでもイエス様はペテロに失望したり、見捨てたりしたわけではありません。イエス様はペテロにも、弟子たちにも、群衆にも語りました。

神さまはあなたをイエス様によって罪と死と悪魔の力から救い出して、あなたを神様の愛する子どもにしてくださいました。そして聖霊様はみ言葉と聖礼典を用いてそのみわざをなし、あなたの信仰を生み出し、強めてくださいます。私たちはイエス様の後ろに従って歩み、この世の幸せよりもはるかにすばらしい神の御国を歩みます。特別な人にだけ与えられるのではなくて、イエス様は全ての人のために、そしてあなたのために死んでよみがえってくださいました。

私たちは生まれつきの思いによってはイエス様の十字架と復活の道は受け入れがたいことだということを認めましょう。そして、自分のそのような十字架を負ったまま、イエス様の後ろに従っていくのです。そうすれば神様にそむく悪い時代にあっても、イエス様はそこに神の国を実現してくださいます。日々担っていく苦しみをあなたは新しい目で見ることができるようになります。あなたと共に日々の歩みを刻んでいく隣人に対して、新しい思いで接することになります。イエス様は地上の王様のように来てくださるわけではありません。環境的にイエス様の国が来ても一時的な限定的な幸せしか実現しません。まずあなたの心にイエス様が来て下さりそこを神の国として下さって、そこからあなたはこの世にあっても、次の世にあっても神の国を生きるものとされるのです。

この一週間も、ペテロのような気持ちを持ちながら、しかし、主イエス様、あなたのみ旨がありますように、と祈りつつ、イエス様を救い主として告白して歩んでまいりましょう。

祈りましょう。「愛と恵に富たもう父なる神様。感謝をいたします。私たちを愛してイエス様によって罪と死と悪魔の力から解き放ち、復活の命に漲らせてくださいました。イエス様が今週も共に歩んでくださることを感謝いたします。私たちは目先の苦しみからの解放を何よりも求めます。そのことをあなたはご存じです。しかしどうぞ、それらを含むもっと大きな、そして根本的な救いをお与え下さる主イエス様に従って歩む一週とさせてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

讚美歌 259 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 天(あめ)なる主イエスの こよなき愛は。かよわき心の 隠れ家なれや。
責めと恥との 十字架を忍び わが罪咎(とが)をば あがない給う。
- 2 恵みに背ける 我をも捨てず 主イエスは血汐(ちしお)の いさおによりて
この身の汚れ ことごときよめ つきせぬいのちと 安きをたまう。
- 3 あおぐも畏(かしこ)き わが主の前に 燃え立つばかりの 愛もて仕え
うきも悩みも み旨にゆだね 天(あめ)なるつかいと 共にぞ歌わん。
- 4 十字架の恵みに 喜びあふれ 涙にむせびて みもとにはべり
世に勝ちませる 主イエスをたたえ 輝くみさかえ 仰がせたまえ。 **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおおみ神に ときわに たえせず み栄えあれ み栄あれ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏